

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 1 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/1 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約 2.0 m ³ /h	19.1 °C	103.0 kPa abs	A系: 0.00 vol%
		給水系:約 2.5 m ³ /h			B系: 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約 2.5 m ³ /h	28.6 °C	5.51 kPa g	A系: 0.03 Vol%
		給水系:約 1.7 m ³ /h			B系: 0.02 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約 2.4 m ³ /h	26.0 °C	0.26 kPa g	A系: 0.06 Vol%
		給水系:約 2.0 m ³ /h			B系: 0.05 Vol%

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H26/5/1 5月分の原子炉の冷却に必要な注水量について、1号機 1.9m³/h、2号機 2.5m³/h、3号機 2.5m³/hと定め、運用を開始。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/1 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.2 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	22.2 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	19.2 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った 45°C を超えることがないように、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

<最新の作業実績>

4/28 6:34 冷却系停止(停止時温度:19.7°C)

4/30 14:06 冷却系起動(起動後の温度:23.3°C)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	5/1 10:10 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	4/24 10:34 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/1 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28凍結管全17本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/5/1 11:07頃 3号機タービン建屋1階西側廊下エリアに設置した建屋内漏えい検出器の警報が発生。その後、現場状況を確認したところ、3号機廃棄物処理建屋中央操作室の天井部から流れ込んだ雨水(指4本程度の流れ)が3号機タービン建屋1階西側廊下エリアに流入して、当該漏えい検出器を動作させていることを確認。また、同日10:00から11:00までの1時間における福島第一原子力発電所構内の降雨量は約24mmであり、降雨量が多い状況であった。このことから、当該漏えい警報の発生は、雨水によるものと判断。
- ・H26/5/1 11:22頃 5号機タービン建屋地下1階南西側の立溝ピット内の漏えい警報が発生。その後、現場状況を確認したところ、立溝内の配管に漏えい等の異常なしはない。なお、当該立溝は、2/19に発生した立溝ピット内漏えい警報発生対策として現在修理中。本日は休工中のため修理箇所のシート養生を実施。本日の強い降雨のため、シート養生の隙間から雨水が立溝に流れ込んでいたことから、漏えい警報が発生したことを確認。また、本日、シート養生の応急処置を実施。
- ・H26/5/1 12:36頃 2号機タービン建屋東側道路において、油漏れ跡があることを作業員が発見し、緊急時対策室に連絡。油漏れ跡の範囲は、約6m×約6mの1箇所。同日12:58に双葉消防本部へ一般回線にて連絡。同日13:25頃、油漏れ跡の拭き取り終了。なお、富岡消防署による現場確認の結果、同日13:56、「危険物の漏えい事象ではなく、車両からの漏えい事象」と判断された。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<トピックス>

- ・H25/12/10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績(4/30)>

- ・高線量当量率箇所(β線による70μm線量当量率)は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果】

<トピックス>

- ・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

<最新の水位>

- ・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[5/1 14:00時点の各建屋水深]

焼却建屋:深さ18.3cm(4/14移送停止後と比較し、0.7cm増)

工作建屋:深さ5.1cm(4/14移送停止後と比較し、0.1cm増)

<最新のサンプリング実績>

- ・大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は

5/1 0:00 時点で約 10,963m³ *集水ピット(南)およびウエルポイントの総量

<移送関係>

- 2,3号機東側に設置したウエルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

<地下水観測孔サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上